



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1992-3 *Real Happiness is Helping Others* まことの幸福は人助けから
1992-3年度国際ロータリーのテーマ/クリフ・ダクターマンR.I.会長

● 退任のご挨拶 ●

会 長 柴本 芳郎 Yoshio Shibamoto

ついこの間“会長就任のご挨拶”を書いたと思っているのに、もう“退任の弁”を書くことになりました。早いものだという気持ちと本当に永かったという気持ちが入り交じり複雑な心境というのが現在の偽らざる気持ちです。

就任時クラブ活動のテーマを“自然体で生き活きたクラブ活動”とし背伸びをせず無理をせず、ごく自然にしかもバランスよくクラブ活動を展開したいと皆様に呼びかけた訳でした。

このテーマをクラブ全員が、そして特に各委員長の皆様が本当に充分理解して下さって各々の分野で委員会活動を活発に展開して頂き、各々の委員会の当初の計画、目標を完全にクリアして頂

いたことは会長の私にとりまして何よりもまして嬉しく心より感謝申し上げる次第です。

しかし乍ら途中、私の思わぬ病氣そして手術のため約一ヵ月のお休みを頂くことになり大変ご迷惑をおかけすることになりましたが、宮武副会長、入沢幹事のご努力で支障なくクラブ活動が継続でき、ご兩人に対し衷心より御礼申し上げたいと思います。

何れにしましても健全に成長して行くクラブとして次に引き継ぐことができることは、望外の幸せです。クラブの皆様、本当に有り難うございました。

副会長 宮武 保義 Yasuyoshi Miyatake

この一年間、副会長、クラブ奉仕委員長の大役を無事務めることが出来たことは、偏に柴本会長はじめ会員の皆様の暖かい御支援の賜でございまして、ここに厚く御礼申し上げる次第です。

クラブ奉仕につきましては“楽しい例会”“活発な各委員会活動”“会員増強”の三つの重点課題のもとに活動を展開して参りましたが、各委員会の委員長をはじめ委員の皆様の絶大なご尽力のおかげで所期の目的を果たすことが出来ました。特に会長方針の一つでありました会員の増強については、当初の目標を超える純増9名を達成し、また楽しい例会が出席の向上をもたらしておりますことは、まことにご同慶の至りです。

一年を振り返って見ますと、昨年の暮れ会長が体調を崩され暫くの間その代行を勤めさせていただいた日々が鮮明な記憶として甦って参ります。大変な緊張の連続でありました。殊に例会、理

事会、忘年家族会等のクラブ運営を入沢幹事と一緒に果たし、新年初例会に元気で出席された柴本会長に再びバトンをお返ししたときは正直言って本当にほっとしました。

一月末の第4回クラブ協議会で、永井会計からクラブ財政の問題点が指摘されました。即ち基金会計をとり崩している現在の会計の運営では、いずれ財政の破綻を免れることは出来ません。当年度、次年度の両会長を中心にクラブ財政特別委員会が開かれ、その議論をもとに、財政再建のための方策を立案することになりました。私はたまたま次年度の会計を仰せつかることになり、永井会計と一緒に作業に没頭し「クラブ会計の健全な運営のための基本方針」を五月の理事会に提出できたことが下半期の想い出です。

この一年間、本当に有り難うございました。

幹 事 入沢 頼二 Yoriiji Irisawa

過ぎ去ってみると長いようで“アッ”という間の一年間でありました。幹事就任に先立ち直前会長の沖さんより、ロータリーの大先輩の清瀬さんの言葉を引用した「幹事は小使のようなものでなく、もっと幹事を重くみるべきだと思います。幹事という名称は軽いので事務総長とか書記長というような、そのくらいのものだと思います」という幹事心得なるものを頂きました。これは大変な役目を引き受けたものをつくづく思い、心にプレッシャーがかかりました。沖さんには、幹事は「クラブの幹」であり中核であるから、しっかりやれと励ましと活を入れてくれたものと理解し、有り難くお聞きしましたが、クラブ運営の中核を担う役目の責任を強く感じました。

今年を振り返り、労を惜まず汗をかくという気持ちで任に当たってまいりましたが、大先輩の言われる幹事とは、程遠いものであったのではないかと思います。

本年度柴本会長の目標が“自然体で生き活きたクラブ”で

あり、具体的な目標として“バランスのとれたクラブ活動”と“会員増強”であります。各委員会はその目標に向かって、善意と奉仕の精神をもって活発な委員会活動を展開していただきました。

ダクターマン会長もロータリーの友六月号で「よくバランスのとれたクラブこそ立派なクラブである」と述べております。本年度柴本会長の目標も正にそこにあったものと理解しております。幹事を経験し、クラブの運営はいかに多くの会員の皆様のご支援が大切であり、それぞれの御立場で奉仕の精神を発揮して頂いて成り立っているということがよくわかりました。

幹事を引受け、なんでこんなものを引受けたのかと思うこともありましたが、素晴らしい会員の皆様とこれらの委員会活動を通じ色々な形でおつきあいをさせて頂きながら教えられ、勉強させて頂きましたことは非常に喜びでありました。このような機会を与えて頂いた会員の皆様に深く感謝申し上げます。

●本日の予定
6月25日 第327回例会

●退任のご挨拶

会長 柴本 芳郎 君
幹事 入沢 頼二 君



牧場の朝 文部省唱歌 ソング・リーダー 河合 佐一郎君 ピアノ伴奏 泉 昌子さん
ただ一面に立ちこめた 牧場の朝の きりの海
ポプラ並木の うっすらと 黒い底から 勇ましく
鐘が鳴る鳴る かんかんと

●先週報告

6月18日 第326回例会

■夜間例会 レディス・デイ 18:00～20:10 全日空ホテル「八雲の間」

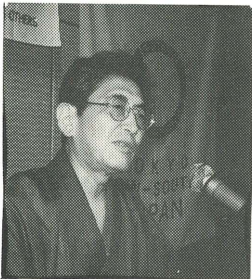
出席者(敬称略): 青野、荒木、芦谷、馬場(博)、平井・恵子、廣江、廣瀬、入沢、石坂、石崎・清子、
会員41名、 石束・陽子、伊藤、岩上・米子、岩瀬・和子、梶内、加藤、河合・泰子、川鍋・小波・
ご夫人13名 久美子、宮武・洋子、二宮、西澤・市子、大日方、沖、坂本、佐藤(定)、関・道子、
柴本・典子、柴田、柴藤、四分一、新保、田島、武下、渡邊・斐子、山田、山川
佐智子、山下、柳澤、横山、吉岡、ザルム

■慶事披露 お誕生日/沖 宏之君(6月21日)、川鍋 二郎君(6月21日)、平井 逸夫君(6月24日)

■出席報告 会員71名中 出席41名、欠席30名(内出席免除者3名)/6月18日修正出席率93%

●卓話

「このごろ想うこと」



大島 渚 氏

本年度最後の夜間例会は、スイスのモントルーから前日帰国されたばかりの映画監督の大島渚氏
にお出で戴きました。「このごろ想うこと」と題して最近、注目を集めているハイビジョンの話から、
ご自身の生い立ち、また人間愛に至るまで、幅広い含蓄のあるお話をユーモアを交えながらお話下さ
いました。

監督の奥様でいらっしゃる小山明子さまに本年度最初の卓話を戴いたことから、ご夫婦にてお話
し戴いたことになり、多くの会員が深い親近感を覚えました。加えて当日は多数のご夫人が出席さ
れ、大変和やかな雰囲気の中、親睦感あふれた例会となりました。

十数年前にNHKが開発したハイビジョンが映画、テレビに続き第三の映像メディアとして注目
されてきましたが、医学、音楽、野球などドキュメンタリーをリアルに写すのには素晴らしいが、
映画に結びつけることは難しいということをお話されました。

監督はフランスとの合作の「愛のコリーダ」イギリスとの合作による「戦場のメリークリスマス」
など、主にヨーロッパの映画界と共同で活躍されておられますが、ヨーロッパの映画の制作方法や
考え方がご自身の考え方と一致する面が多く、大変仕事がやりやすいということでした。

映画に対するポリシーが頑固なまでに感じられ、それ故いつも話題作が制作できるのだと思いま
す。そして映画界に入られ監督としての道を歩まれた時に、映画というものについて人一倍深く考
えたことが今日のご自身を支えているというお話が印象的でした。

さらに、着物は日本の文化の一つであり、日本人が一番美しく見え、ご自身もよく着物を愛用さ
れており、その着物にまつわるお父上との情愛についても話されました。

ご子息に対する愛情、人間としての礼儀作法、質素倹約の大切さなど、監督の実直なお人柄を感じ
させられるお話でした。

(川鍋 二郎記)

ニコニコBOX

6月18日●10件/¥34,000
本年度累計/¥2,413,083

紙面の都合上、お名前だけ掲載させて頂きます。多額のご寄付有り難うございました。(敬称略)

●平井 逸夫 ●二宮 利泰 ●梶内 滋男 ●岩瀬 秀郎 ●小波 雅亮 ●吉岡 琢磨
●荒木 昭文 ●石束 嘉男 ●廣瀬 哲久 ●宮武 保義

●次回予告

7月2日 第328回例会

■卓話 「就任のご挨拶」

93～94年度会長 斉藤 茂之 君

93～94年度幹事 吉田 用親 君

本号をもちまして、本年度会報委員会の担当は終了致しました。一年間のご協力とご愛読を感謝申し上げます。
(クラブ会報委員会)

東京新南ロータリークラブ

会長: 柴本芳郎 副会長: 宮武保義 幹事: 入沢頼二
〒107 東京都港区赤坂2-22-19 南部坂アネックス201号
TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日・12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

会報委員

青野 信次、大日方 真、新保 國彦
荒木 昭文

●6月度編集担当者/田中 武

●卓話テーマ翻訳/渡部 一元

●印刷/豊圓堂印刷(株)